

# 「プロジェクトベース設計演習」

## 経済産業省“社会人基礎力を育成する授業 30 選”に選出

稻永 健太郎 Kentaro INENAGA	九州産業大学 情報科学部 情報科学科 Faculty of Information Science, Kyusyu Sangyo University inenaga@is.kyusan-u.ac.jp, http://www.is.kyusan-u.ac.jp/~inenaga/
宮崎 明雄 Akio MIYAZAKI	九州産業大学 情報科学部 情報科学科 Faculty of Information Science, Kyusyu Sangyo University miyazaki@is.kyusan-u.ac.jp, http://www.is.kyusan-u.ac.jp/~miyazaki/
安部 恵介 Keisuke ABE	九州産業大学 情報科学部 情報科学科 Faculty of Information Science, Kyusyu Sangyo University abe@is.kyusan-u.ac.jp, http://www.is.kyusan-u.ac.jp/~abe/
下川 俊彦 Toshihiko SHIMOKAWA	九州産業大学 情報科学部 情報科学科 Faculty of Information Science, Kyusyu Sangyo University toshi@is.kyusan-u.ac.jp, http://www.is.kyusan-u.ac.jp/~toshi/
成 凱 Kai CHENG	九州産業大学 情報科学部 情報科学科 Faculty of Information Science, Kyusyu Sangyo University chengk@is.kyusan-u.ac.jp, http://www.is.kyusan-u.ac.jp/~chengk/
仲 隆 Takashi NAKA	九州産業大学 情報科学部 情報科学科 Faculty of Information Science, Kyusyu Sangyo University naka@is.kyusan-u.ac.jp, http://www.is.kyusan-u.ac.jp/~naka/
澤田 直 Sunao SAWADA	九州産業大学 情報科学部 情報科学科 Faculty of Information Science, Kyusyu Sangyo University sawada@is.kyusan-u.ac.jp, http://www.is.kyusan-u.ac.jp/~sawada/
古井 陽之助 Yonosuke FURUI	九州産業大学 情報科学部 情報科学科 Faculty of Information Science, Kyusyu Sangyo University http://www.is.kyusan-u.ac.jp/~furui/
安武 芳紘 Yoshihiro YASUTAKE	九州産業大学 情報科学部 情報科学科 Faculty of Information Science, Kyusyu Sangyo University yasutake@is.kyusan-u.ac.jp, http://www.is.kyusan-u.ac.jp/~yasutake/

### 1. はじめに

授業として各方面からの評価が高い産学協同実践教育「プロジェクトベース設計演習」[1]-[12]が、経済産業省“社会人基礎力を育成する授業 30 選”（以下、単に授業 30 選）に選出された。以下、授業 30 選の概要、および選出された応募内容について報告する。

### 2. 社会人基礎力を育成する授業 30 選

経済産業省では、平成 18（2006）年度以降、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な能力を「社会人基礎力」と定義し[13]、その育成を推進してきた。平成 20（2008）年度以降、経済産業省は、大学生がゼミ・研究室単位で、授業を通じてどれだけ社会人基礎力が伸びたかチームで発表させ、その成長度合いを競う「社会人基礎力グランプリ」[14]を開催している<sup>1</sup>。このグランプリは、活動に取り組む大学生を表彰するのがその特徴である。

一方で、経済産業省は、平成 23（2013）年度に、

大学教育における社会人基礎力等の育成を推進するという観点から、効果的な育成手法を実践している大学のグッドプラクティス（Good Practice, 優れた取組み）を表彰し、各大学の創意工夫を広く共有し相互に学び合える環境づくりを目的とした「社会人基礎力を育成する授業 30 選」を実施した。この授業 30 選は、育成する側である教育機関を表彰するのがその特徴といえる。

今回の授業 30 選では、社会人基礎力の 3 つの能力、12 の能力要素（図 1 を参照）の育成のみに限らず、各大学が実施する社会で活躍していくために必要な力を育成する取組みを幅広く募集した。以下、今回の授業 30 選の実施概要（一部抜粋）を示す[15]。

- (1) 応募対象：大学・大学院（短期大学含む）段階の学生を対象として、社会人基礎力や各大学・プログラムが独自に設定している能力要素の育成に取り組む授業、ゼミナール・研究室、学科・学部等

<sup>1</sup> 平成 23（2011）年度まで経済産業省が主催。

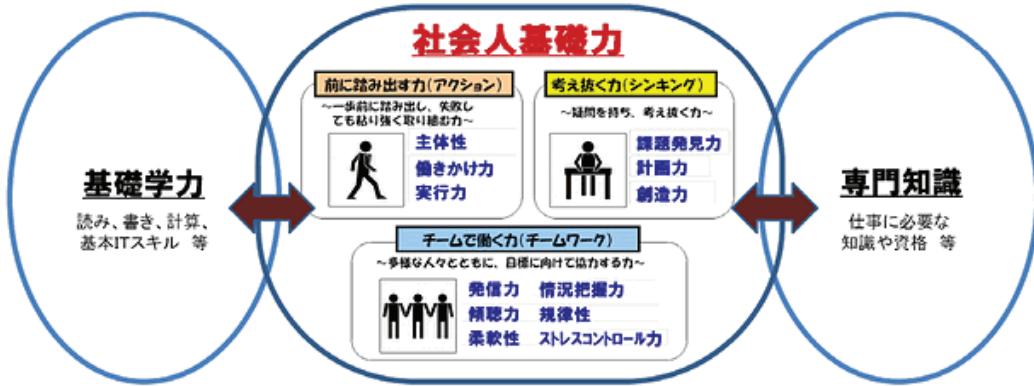


図 1「社会人基礎力」(3つの能力・12の能力要素) 及びその位置づけ

<http://www.meti.go.jp/press/2013/11/20131126001/20131126001a.gif>

- (2) 応募資格: ①取組みを行っている主たる教員であること ②平成 25 年 4 月 1 日以降に実施した(ている)教育の取組みであること、また平成 25 年 4 月 1 日以前に開始して、今年度も継続している取組みも対象 ③授業内容の公表が可能であること ④当該学校から応募に係る一切の事項について了承を得ていること(1 大学から複数応募可能)
- (3) 賞の構成: 審査委員会による審査により、表彰対象を約 30 件選出する。
- (4) スケジュール
  - 応募受付: 平成 25(2013) 年 11 月 26 日(火)～平成 26(2014) 年 1 月 31 日(金)
  - 審査結果通知: 平成 26 年 2 月下旬
  - 表彰式: 平成 26 年 3 月 9 日

### 3. 審査基準

今回の授業 30 選での審査基準は、以下のように示されている[15]。

#### A : 効果的な育成・評価方法の工夫

学生の目標設定・意識づけ・関係者や企業等外部との信頼構築の工夫など、効果的な育成・評価方法が取り入れられているか、また学生に気付きを与え、成長を促すために教員はどのような行動・コミュニケーションを行っているか、特に以下①～③の観点を評価する。

- ① 「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」等、社会で活躍するために必要だと思われる能力を育成する際の能力の効果的な育成方法の工夫

以下に示す 3 つの観点をはじめ、社会で活躍するために必要だと思われる能力について、

どのような育成環境や仕組みをどのようにつくりだしているか

- 学生が課題の解決に向け恐れずに能動的に行動を起こす状況、本気になる状況をどのようにつくりだしているか(前に踏み出す力)
- 試行錯誤し、あきらめず考え方をどのようにつくりだしているか(考え方)
- 各人の力を持ち寄り、活かし、相互に高めあう機会、学内外の立場や価値観の異なる様々な人と接点をもち、成果を高める機会をどのようにつくりだしているか(チームで働く力)
- ② その他、当該プログラム独自に設定している能力項目の効果的な育成方法の工夫
- ③ 教育の効果を適切に評価・検証し、さらなる成長を促すための工夫

育成目標に適した評価内容や基準を設け、効果を検証する仕組みをどのように構築しているか、※評価時期(事前・中間・事後)、評価者(学生自身・教員・企業関係者)、評価基準(レベル)、評価方法(面接、テスト等)、フィードバックにおける工夫

#### B : 成 果

上記 A の①～⑤の取組の結果、どのような成果が挙がったか。

### 4. 応募内容

応募内容の詳細(一部抜粋)を以下に示す。

## ・対象プログラムの概要

(2) 対象プログラムの概要	
対象プログラムの名称	産学連携実践教育「プロジェクトベース設計演習」
プログラムタイプ	①実践型学習（企業連携） ②実践型学習（企業連携なし） ③通常授業 ④その他（ ）
単位の授与	1あり 2なし
実施している期間	平成24年9月～平成25年1月
実施規模	①参加教員：9名 ②職員：0名 ③TA：15名 ④受講学生：69名 ⑤連携企業数：1社
授業時間数	4.5時間
学生のプレゼンの機会	1あり（1回） 2なし
評価の回数	■自己評価の回数：1回 ■他者評価の回数：2回
当該プログラムの実施範囲	1単一の授業のみで実施 2研究室やゼミで実施 3学科・学部全体で実施 4専門組織（キャリアセンター等）により学部横断的に実施 5全学年に実施 6その他（ ）
ぶりがな	ぶろいぐとべーすけいえんしゅう
実施対象の名前	プロジェクトベース設計演習 (授業名「情報科学演習II、エンジニアリングエコノミー」)
プログラムの概要	現役の情報技術者をインストラクターに迎えた、産学協同でのプロジェクト管理教育。システム開発プロジェクトを疑似体験させ、品質・納期・コストを意識したプロジェクト管理の実際およびコミュニケーションの重要性を理解させる。プレゼンテーションの能力ならびにデザイン（設計）能力を向上させる。組込みソフトウェア開発あるいはWebアプリケーション開発の製品設計技術を理解・習得（実装・テスト等）をさせます。
関連ウェブサイト	<a href="http://www.kyusenru.ac.jp/guide/fukupro/education/30sangaku.html">http://www.kyusenru.ac.jp/guide/fukupro/education/30sangaku.html</a>

## ・対象プログラムの具体的な内容

(3) 対象プログラムの具体的な内容	
①育成対象としている人材像・育成目標	育成対象としている人材像 社会人基礎力で定義された3つの能力「チームで働く力」「考え方」「前に踏み出す力」すべてを駆使できる、総合的な社会人としての能力を身に付けている人材。このプログラムでは、IT業界（開発）の現場において、システム開発プロジェクト管理の実際を理解した実践的な情報技術者を育成する。 育成目標能力項目 ・「チームで働く力」：システム開発プロジェクトの現場において、主導的にして他メンバーに働きかけながらも他のメンバーとともにプロジェクトを運営する。 ・「考え方」：顧客からの要望やチーム内のメンバーが発見した課題に対し、解決に向け計算し創造的なその策を提案する。 ・「前に踏み出す力」：自らが主導的に他メンバーへ意見を発信し、また他メンバーの意見を傾聽しながら柔軟にその状況を把握し、ストレスコントロールしながらチーム内の規律を保つつづチーム全体で協力をしながら開発を推進する。
②当該プログラムを開始した背景	情報技術者を育成するにあたり、教員による学内での講義や演習・実験だけでは、システム開発現場におけるプロジェクト管理の実際を理解させ、かつそのために必要な能力（いわゆる「社会人基礎力」）を身に付けさせることは容易ではなかった。そこで、現役の情報技術者をインストラクターとして演習に迎え、産学協同でのプロジェクト管理教育を実践（“逆”インターンシップ）し、受講生に社会人基礎力を身に付けさせることを含め、平成16（2004）年度から開始、現在まで継続実施している。
③育成のための取組内容と育成のプロセス	主な取組み内容 ・複数構成の体制でのプロジェクト管理・運用を疑似体験させ、システム開発プロジェクト管理の実際をより深く理解させる ・チーム内／対顧客会議および企業関係者の立会いの下で成果報告会に参加することで、コミュニケーション・プレゼンテーションの能力、システム開発におけるデザイン（設計）能力を向上させる ・複数回の“振り返り”により、教育目標を周知および教育効果を浸透させる ・コンピテンシー評価を実施することで、受講生および学生スタッフがどのような自己成長をしたのかを確認させる 育成プロセス 受講前アンケート（自己評価）→ **対顧客会議およびチーム活動における指導（見守り、助言）→ 中間講評（他者評価、**の途中で実施）→ 最終講評（他者評価）および総括（自己評価）→ 受講後アンケート（自己評価）
④育成の評価	評価者：受講生自身（自己評価）、教員、企業参加者による他者評価（(3) ③参照） 評価基準：自己評価では演習の育成目標能力項目（(3) ①参照）を詳細化・具体化した上で、どの程度到達しているかを受講前後で比較し相対的に評価。他者評価では、同様の項目をもとにチーム単位で受講終了時に評価。 活用ツール：（独）情報処理推進機構 IPA 提言の IT 人材育成向けコンピテンシー評価基準を用いたオンラインアンケートおよび独自設定のオンラインアンケートを使用

## ・効果的な育成・評価のための工夫

(4) 効果的な育成・評価のための工夫	
当該能力育成の際の課題	学生の目標設定・意識づけ・関係者や企業等外部との信頼関係の構築など、効果的な育成・評価方法をおこなうための工夫や、また学生に気付きを与え、成長を促すために実行している行動・コミュニケーションの内容について、背景となる課題・問題意識、実施内容、把握した効果（定量・定性）について具体的に記入してください。 ※特に、学生本人が本気になること及び学生の能力レベルに応じてテーマ設定を変えて学生が常に社会人基礎力を高めていく環境整備や、本人が自立的に育成できる仕組みの整備など、工夫があれば記入ください。
当該能力育成の際の工夫点および成果	受講生自らが当該能力の重要性を認識し、能動的にその能力を身に付けようとする意識を植え付け、行動させなければならない。 当該能力育成の際の工夫点および成果 演習初回のガイダンスや各種講義、受講前アンケートにおいて、当該能力についての基礎知識を理解／認識させる。 演習中は、受講生の周辺に“先輩”役の上級生、“上司”役の企業技術者および教員等を配置し（右図参照）、受講生の行動を見守りつつ、状況に応じて受講生に対し助言を行う。助言内容は単なる行動指示ではなく、受講生に対する次の適切な行動をさせるための“気づき”を与えることに重点を置いている。さらに、毎回の授業終了後、業務報告書（日報）を受講生に作成させ、“先輩”や“上司”からその内容にコメントを与え、次回の授業で受講生にそのコメントを確認させていている。 演習時間外には、いわゆる“飲みニケーション”を実践する場を設け、“先輩”役の上級生および“上司”役の企業技術者および教員等とのコミュニケーションが円滑に行えるような環境づくりを行っている。
②その他、当該プログラム独自に設定している能力項目を育成する際の内容、課題、育成の工夫点や成果	システム開発プロジェクト管理が実践できる能力を身に付けさせるため、上記①と同様に、企業技術者から現場のノウハウを随時受講生に紹介していく。“上司”役としての受講生とのコミュニケーションや、業務報告書、演習内の講義担当、“飲みニケーション”といった様々な場面で実施している。
③教育の効果を適切に評価・検証し、さらなる成長を促すための工夫	受講生が当該能力をどの程度身に付けたのかについて、受講前後の相対的な変化を測定するための受講前・受講後アンケートを実施し、演習前後でどのような自己成長をしたのかを受講生自身に確認させる。アンケートでの評価基準については、独自で設定した基準とともに、外部専門団体提言の IT 人材育成向けコンピテンシー評価基準を採用し、より他視点かつ客観的な評価基準を採用している。また、中間講評および最終講評として、大学・企業（スタッフ）側の視点での受講生の成長を公表している。

## ・その他教育づくりの工夫

(5) その他教育づくりの工夫	
①地域社会や企業の協力を得ている場合、教育目標や育成・評価の取組内容など協力・支援をより有効なものにするための依頼・調整上の工夫	・社会人・現場の技術者の視点から、各種講評および評価の一部を企業側に担当いただく。 ・演習において、現役技術者から受講生に対して積極的にコメントいただき。 各回の授業ならびに演習全体の各スパンで、PDCA サイクルに基づく取り組み内容の見直しおよび改善を行う。 ・演習全体の開始前に、前年度の反省材料をもとに当該年度の演習実施についてのキックオフミーティング、毎回の授業終了後に1時間程度かけて終了ミーティング、演習全体が終了後、当該年度の総括（反省会） 学内外の関係者と連携・協働した取組を高めるための工夫 ・大学院レベルの講座を企業で開講し、技術者の専門スキル向上へ協力する。 ・若手技術者に演習内講義部分を担当させ、プレゼンスキル向上へ協力する。 ・成果報告会に地元産業界や関連自治体等から出席いただき、第三者視点からの全体性についての講評をいただく。 継続的・汎用性による工夫 ・企業側への上記 2 種類のスキル向上の取組みを継続的に提供する。 ・当該演習を JABEE（日本技術者教育認定機構）認定コースの必修科目とし、学部として継続的に取り組むことができる体制を確立する。 IT 系学会（情報処理学会）内研究会主催の情報システム教育コンテストへ継続参加し、汎用可能とするアドバイスを専門家から受ける機会を作ること より多くの学生に関心を持たせ、参加させる工夫 ・現役技術者とより多くコミュニケーションする機会（授業中、授業外での懇親会）を提供し、演習への関心や参加意欲、加えて IT 業界への関心を持たせる。 ・演習開催科目を具体的に示し、演習前の受講を推奨する。合わせて、それら科目において演習との関連性を適宜示す。
②その他、学内外の関係者と連携・協働し教育力を高めるための工夫、継続的で、汎用可能な工夫、より多くの学生に関心を持たせ、参加させる工夫など	・企業側への上記 2 種類のスキル向上の取組みを継続的に提供する。 ・当該演習を JABEE（日本技術者教育認定機構）認定コースの必修科目とし、学部として継続的に取り組むことができる体制を確立する。 IT 系学会（情報処理学会）内研究会主催の情報システム教育コンテストへ継続参加し、汎用可能とするアドバイスを専門家から受ける機会を作ること より多くの学生に関心を持たせ、参加させる工夫 ・現役技術者とより多くコミュニケーションする機会（授業中、授業外での懇親会）を提供し、演習への関心や参加意欲、加えて IT 業界への関心を持たせる。 ・演習開催科目を具体的に示し、演習前の受講を推奨する。合わせて、それら科目において演習との関連性を適宜示す。

## ・教育プログラムの評価

(6) 教育プログラムの評価	
①教育プログラムを評価改収していく仕組み	・各回の授業ならびに演習全体の各スパンで、PDCA サイクルに基づく取り組み内容の見直し／改善を行う（詳細は（5）①を参照）。
②これまでの取組の評価	・2004 年度から現在に至るまで 10 年もの長期に渡り継続実施。 ・外部からの高評価（情報処理学会「情報システムコンテスト ISECON」において 4 度の受賞、経済省の IT 人材教育関連事業に採用 等）
③教育プログラムの導入により得られた効果	・プログラムの育成目標（詳細は（3）④に記載）に示した効果に合わせて、以下に示す効果も得られている。 ・関連する他の授業へのモチベーションを向上させる。 ・IT 業界への就職志望者を増加させる。 ・コンピテンシーについての自己成長をしたのかを確認できる。

## 5. 審査結果および表彰式

全国から180件を超える応募の中から、本演習は30選に選出された（本学部を含む受賞団体の詳細は本稿最後尾の付録を参照）。

平成26（2014）年3月9日（日）上智大学四谷キャンパス10号館講堂で開催された「社会人基礎力を育成する授業30選 表彰式&特別シンポジウム」に稻永が出席し、表彰を受けた（図2および図3を参照）。



図2 表彰式&特別シンポジウム会場



図3 表彰状授与

## 5. おわりに

産学協同実践的教育「プロジェクトベース設計演習」は、2004年以降継続して改良実施されている本学部にとって特徴ある演習内容となっている。

この演習が、経済産業省「社会人基礎力を育成する授業30選」に選出され、またISECON2013[15]において通算4度目となる受賞ができたことは、これまでの演習実施のための学部としての努力が認められた大変名誉なものである。今後も本演習はさらなる改良を加えて、継続的に実施できるよう努力を進めるものである。

## ◇ 参考文献 ◇

- [1] 平成16年度経済産業省委託事業ITサービス人材教育訓練基盤状況調査報告書,みずほ情報総研株式会社(2005)
- [2] 経済産業省平成16年度産学協同実践的IT教育訓練支援事業「組込みソフトウェア技術者育成実践教育プログラム」教育訓練システム実証成果報告書,九州産業大学(2005)
- [3] 有田五次郎:「組込みソフトウェア技術者育成実践教育プログラム」実施報告,九州産業大学情報科学会誌,Vol.4,No1,pp.2-10(2005)
- [4] 有田五次郎,花野井歳弘,牛島和夫:「2005年度産学連携実践教育実施報告」,九州産業大学情報科学会誌,Vol.5,No1,pp.8-12(2006)
- [5] 花野井歳弘,有田五次郎,澤田直,牛島和夫,吉元健次,牧園幸司:双方向型産学連携実践教育,情報処理学会論文vol.48,No.2,pp.832-845(2007.2)
- [6] 経済産業省産学協同実践的IT教育レポート,みずほ情報総研株式会社,pp.82-89(2007.3)
- [7] 経済産業省産学協同実践的IT教育レポート 個別事業詳細(資料編),みずほ情報総研株式会社,pp.500-520(2007.3)
- [8] ibid,pp.521-557
- [9] ibid,pp.558-657
- [10] 花野井歳弘,稻永健太郎,澤田直,安武芳紘,牛島和夫:産学協同実践教育「プロジェクトベース設計演習」高度化の取組み,情報処理学会研究報告,2009-IS-107,pp.163-170(2009.3)
- [11] 稲永健太郎:産学連携実践教育「プロジェクトベース設計演習」の取り組み,情報処理学会会誌「情報処理」,Vol.53, No.7, pp.686-689(2012.6)
- [12] 稲永健太郎,宮崎明雄,成凱,下川俊彦,朝廣雄一,安部恵介,澤田直,安武芳紘,古井陽之助:産学協同実践教育「プロジェクトベース設計演習」の継続実施における基盤強化の取り組み,情報処理学会研究会報告,Vol.2012-IS-120, No.5(2012.6)
- [13] 経済産業省:社会人基礎力,<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/>
- [14] 経済産業省:「社会人基礎力育成グランプリ」,<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/gp.html>
- [15] 経済産業省:「社会人基礎力を育成する授業30選」公募要領(2013)
- [16] ISECON2013 Information Systems Education Contest 2013,  
<http://www.ne.senshu-u.ac.jp/~matunaga/isecontest/>
- [17] 経済産業省:「社会人基礎力を育成する授業30選」受賞団体一覧  
(2013),  
<http://www.libertas.co.jp/kisoryoku2013/prizes.pdf>

◇付録◇

「社会人基礎能力を育成する授業30選」受賞団体[17]

【大学名】	【学部・学科名等】	【対象プログラム名称】
愛知学泉大学	家政学部家政学科 管理栄養士専攻	社会人基礎力を活用する履修選択・ピジョンを達成するためにー
詩月学園女子大学	マネジメント学部マネジメント学科	展開セミナー;「企業マネジメント女性活躍の条件~
岩手県立大学	ソトヨコ情報学部	プロジェクト演習
大阪大学大学院	工学研究科高度人材育成センター	インターンシップ・オンライン・キャンパス
岡山理科大学	工学部工芸プロジェクトコース	建学の理念に基づく工学部学科横断的プロジェクト導入型教育システムの実践
金沢大学／共通教育機構		共通教育特設プログラム「キャリアディベロップメント」
金沢工業大学		KIT インターンシップ（成長支援型インターンシップ）
北九州市立大学	地域創生学科	地域創生実習
九州産業大学	情報科学部情報科学科	産学連携実践教育「プロジェクトベース設計演習」
京都光華女子大学短期大学部	ライナーデザイン学科	就職率と就職質アップのための実践的プレゼンテーション演習
京都産業大学	経営学部経営学科	企業人と学生のハイブリッド
京都産業大学		Q1OCF-PBL
工学院大学	グローバルエンジニアリング学部機械創造工学科	Engineering Clinic Program (ECP)
埼玉女子短期大学	国際コミュニケーション学科	産業連携に基づく地域活性化プロジェクト参画型アクティブラーニング プログラム
産業能率大学	経営学部現代ビジネス学科	基礎ゼミ1、基礎ゼミ2
芝浦工業大学	システム理工学部 / 大学院理工学研究科システム理工学専攻	システム工学教育
城西大学	現代政策学部社会経済システム学科	休耕地活用プロジェクト
成城大学	共通教育研究センター	大学初年次のキャリア教育における行動意欲醸成
創価大学	経済学部経済学科 西浦 昭雄ゼミ	学生中心PBL型学習によるグローバル人材輩出の試み
中央大学	理工学部情報工学科	画像・映像コンテック演習（段階別コンピテンシー育成教育プログラム情報工学科主対応科目群）
電気通信大学		電気通信大学 キャリア教育
東京工業大学	工学部機械宇宙学科	機械宇宙プロジェクトA
同志社大学	政策学部	アドミック・スキル～ユニバーサルデザイン社会の政策と実践～
東洋大学	社会学部メディアコミュニケーション学科 / グローバル・キャリア教育センター	キャリア・デベロップメントプロジェクト 埼玉県産業人材育成情報発信事業 埼玉県内企業魅力発信動画プロジェクト
名古屋工業大学	工学部	工学系正課がキャラバンを通じた社会人基礎力育成プログラムの実践
西日本工業大学	工学部	日産自動車九州㈱との連携による実践課題解決を通じた学生の社会人基礎力の育成
日本大学	工学部土木工学科	学生と地域住民との協働による道づくり横守（はしもり）プログラム
浜松学院大学	現代コミュニケーション学部子どもコミュニケーション学科	DiCoRes（ディコレス）プログラム
広島経済大学	興動館	興動館教育プログラム
流通科学大学	サービス産業学部 滝藤暢秀ゼミナル	高大連携地域資源ブランド商品開発～教えることで真の学びを～